

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

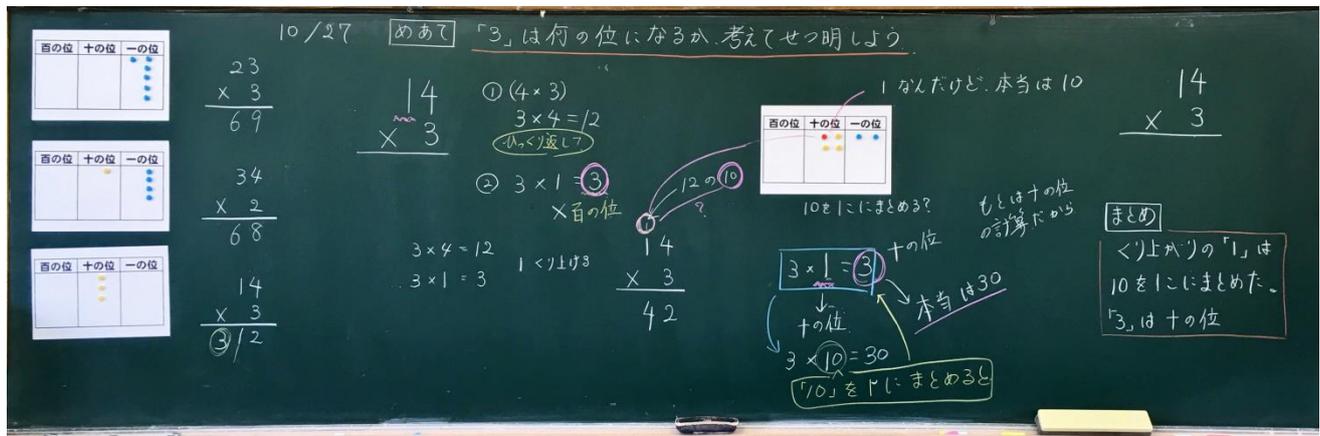
10月30日(火)

徳淵

10月26日(金)研究発表会 お疲れ様でした！先生方のおかげで、事前準備もスムーズに済み、充実した発表会になったと思います。運営上の反省は来年度に生かしていきたいと思います。各学年の授業はいかかでしたでしょうか？他校の先生はもちろんですが、室小の先生方の授業づくりに少しでも役に立つものを授業者3名、それぞれ提案したつもりです。今後の授業づくりのヒントにいただければ、嬉しいです。

さて、10月27日(土)に熊本市立白川小にて、算数の研究大会で授業をしてみました。今回の通信はその報告と、私の主張点及び学んだことをお伝えしたいと思います。

3年生の2桁×1桁の筆算の授業を提案しました。



単純に言えば、計算技能の習得を図りつつ、別のものを見せられないかというチャレンジです。かけ算の筆算には、①相対的な数の見方 ②位取り記数法 ③分配法則 ④交換法則 の4つの見方・法則が内在しています。その部分に目を向けさせることで、割合の見方の素地を養ったり、乗法そのものに対する理解を深めさせたりできると考えました。

本時の授業では、特に①と②について取り上げました。3×1=3の3は何の位になるのかを考えさせることで、「10を『1』とみる見方(数の相対的な見方)」を引き出し、繰り上がりの小さな『1』の意味を深めさせる展開でした。

研究会では、主張点については助言者の先生にも認めていただけました。ただし、本時の流れや単元全体の構成を今後さらに深める必要があります。子どもたちの主体性を引き出すめあて(課題)の設定や、単元のどの部分でどんな見方や法則への理解を深めさせられるかが課題として残りました。また、研究を深めたいと思います。